

数学 北海道大学【理学部（数学・物理・生物・地球惑星）、工】（後期）

<全体分析>

試験時間	100分	解答問題数	4題
------	------	-------	----

解答形式

全問記述形式

分量・難易（前年比較）〔前年（2020年）は中止のため、その前年（2019年）との比較〕

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

難しくはないが、きちんとした解答を作ろうとするとやや面倒。

出題の特徴

数学Ⅲからの出題がほとんどなくなった（2019年度は4題中3題）。

その他ピックアップ

前期に続き、後期も「複素数平面」からの出題がなかった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	微分法・積分法	数学Ⅱ 数学Ⅲ	内容はほとんど数学Ⅱの範囲のものだが、4次関数の頻出タイプの問題ではないので、簡単とは言えない。また、数値がかなり大きいことに注意して上手に計算したい。	標準
2	三角関数 平面ベクトル	数学Ⅱ 数学B	どこから手をつけ、どこまで変形すべきか悩ましい問題であるが、最初にある程度しっかり計算すると見通しがよくなる。	標準
3	確率	数学A	後期日程では珍しい標準的な条件付き確率の問題。ぜひ完答したい。	標準
4	整数	数学A	不定方程式を解くだけの問題なのだが、準備の設問に証明問題がある。それほど難しくはないだろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

今年は今までの後期日程の雰囲気とは変わり、数学Ⅲの占める割合が減って標準的な4題の試験問題が並んだ。これは今年度の入試に限った『特別な事情』が関係しているかもしれないので、あまり気にしない方がよいと思われる。来年度の入試では従来の形に戻ることも考え、今まで通りの数学Ⅲが出題の中心でボリュームのある4題の出題を想定し、ハイレベルの問題演習で対策しておくべきだろう。